



鳥取県教育センターだより



Tottori Prefectural Education Center News

〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201 【TEL】0857-28-2321(代表) 【FAX】0857-28-8513
【URL】http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/ 【e-mail】kyoikucen@pref.tottori.jp



教育センターへの期待Best 3～「教職員研修等実施協議会」より～

鳥取県教育センターでは「教職員の資質・能力の向上」を図るため「教職員研修等実施協議会」を設置し、有識者、市町村教育委員会、学校・園の代表の方々にお世話になり、実施する研修等について意見をいただいています。また、関係の各方面に「センター業務について」「事業内容について」等のアンケート調査も行っていますが、「今後の担うべき役割について」という項目で教育センターへ届いた要望Best 3を紹介します。「研修の充実」を除いては第1位「教育情報の収集・発信・提供」、2位「学校支援（講師派遣）」、3位「情報教育（ICT活用教育）」となり、学校教育への支援に対する要望が高いことがわかりました。これからも当センターでは、様々なコンテンツを用意して校内研修等への支援を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

1位 教育情報の収集・発信・提供

2位 学校支援（講師派遣）

3位 情報教育（ICT活用教育）



校内におけるOJTの推進に向けて！

本県では、教職員の大量退職の時期に突入し、ベテランの優れた指導技術や教育実践を確実に若手教員へ継承していくことや、計画的に人材を育成していくことが急務となっています。こうした中、学校が社会の様々な要請に応え、質の高い教育活動を展開するためには教職員一人一人がそれぞれの教職キャリアをふまえ、学校組織の一員として資質・能力の向上を図ることが必要です。教職員同士が互いに学び合い高め合う人材育成（OJT）を推進していくことで、学校の組織力向上につなげていきましょう。校内OJTの推進にあたっては、教職員一人一人が人材育成に関する意識をもつことや、校内の仕組みづくりが必要です。当センターではOJT推進に係る資料を作成し、人材育成の支援を行ってまいります。

土曜自主セミナー「企業経営に学ぶ」



12月3日（土）、株式会社リンガーハット 代表取締役会長兼CEO 米濱和英氏を講師にお迎えし、倉吉体育文化会館で土曜自主セミナーを開催しました。「損得より善悪を優先」「最もピンチの時に次の目標構築」「率先垂範」など、多くの示唆をいただきました。

講話後の質疑では、普段聞くことのできない企業トップの方の考え方から学ぶ貴重な機会と

なりました。

参加者からは、「失敗しても常に次に向かう姿勢」「組織を成長させるには、リーダーの役割である理念を掲げ、進むべき方向を指し示すこと」が大切だという感想をいただきました。

土曜自主セミナー開催のお知らせ

絆を深める 学級経営

—新学期のよりよい学級づくり・人間関係づくり—

2017年 3月4日（土）13:30～16:15

鳥取県教育センター 大研修室

講師 鹿嶋 真弓（高知大学准教授）

昨年大好評だった鹿嶋先生のご講義、今年もお迎えし、開催します。現場で頑張っておられる若い先生&未来の先生、一緒に人間関係づくりのコツを学びませんか？

学びの文化祭 & iPad 活用公開研究会 IN TOTTORI を開催

1月23日(月)に鳥取湖陵高等学校を会場として開催されました。当日は雪の中、県内小・中・高・特別支援学校の先生方、教育関係者をあわせて50名以上の参加がありました。研究授業では、生徒たちがICT機器を活用したり、グループで意見を出し合ったりしながら、思考を深めている姿が見られました。指導・講評では、指導助言の先生方から「課題をよく吟味し、生徒に一番考えさせたい内容をしっかりと考えることができる活動を仕組む」「授業改善を行うためにICT機器の活用するのだという目的を見失わないことが大切」という助言をいただきました。

◆研究授業 (国語、数学、理科、工業、情報)

- ・LTD話し合い学習法を取り入れた授業
- ・知識構成型ジグソー法を取り入れた授業
- ・ICT(winタブレット、iPad)を活用した授業

◆研究授業に関する研究協議

◆iPad活用報告会

◆指導・講評

指導助言者

東京大学
白水 始 教授

静岡大学
益川弘如 准教授

高等学校課
今村恒介 指導主事



「情報化推進リーダー研修(2回シリーズ)」を実施しました。

鳥取県ICT活用教育推進ビジョンに沿って「教育の情報化」を推進していくため、本年度は、6月と12月の2回シリーズで情報化推進リーダー研修を実施しました。次期学習指導要領の方向性をふまえ、資質能力の育成のためにICT機器の果たす役割がますます重要になってくることや、校内でICT活用スキル向上等の研修を行い、教育の情報化を推進していくことの必要性について研修しました。

学習指導要領の改訂も迫っており、県内多くの市町村、県立学校ではICT機器の整備も進んでいます。各学校での「教育の情報化」を進めていきましょう。



道なき道を

実に「33年ぶり」ということである。センターも雪に覆い尽くされた。

33年前の大雪のことを覚えている(…というより、歳を数えながら思い出した)。

—— 提出締切りの明け方、夜通し書いてようやく仕上げた「卒業論文」。ふと外を見ると、腰までもある新雪。意を決し、下宿から大学までの「道なき道」を、卒論の入った鞆を背に、雪をかき分けながら突き進んだ記憶がある。まるで数百メートルを泳いだようだった。

道とは本当にありがたいものだ。先人の開いた「その道」を辿り感謝しつつも、時に、いよいよ自ら切り開かなくてはならないと感じる局面に出くわすことがある。多様な教育課題が山積する中、教育センターに寄せられる期待に応えようとする現在も、まさにそうである。

「Where there is a will, there is a way」(意志あるところに道は開ける)という。強く柔軟な意志をもって進みたい。

さて、写真は除雪機をもって「道なき道」を開こうとする所員の後ろ姿だが、実に頼もしく、強烈な意志を感じる背中とは思われまいか。



所長 大西 泰博